

太陽の街・八王子—パッションフルーツの美味しさを広めよう！—

杏林大学総合政策学部 木暮ゼミナール（2年）

宮城銘子 歌田真莉子 廣岡稜 五十嵐由樹

指導教員 木暮健太郎

＜要約＞

八王子の新たなブランドの一つに、パッションフルーツがある。現在もJA八王子を中心として、「太陽の街・八王子」というキャッチコピーを用いながら、パッションフルーツの普及に努めている。しかしながら、その認知度は低いままとなっている。そこで、八王子学生天国やキャンパスでの試食会を通じて、とくに若い女性にむけた告知を行っていきたいたい。

＜キーワード＞

・パッションフルーツ・太陽の街八王子・学生天国・新商品提案・試食会

1. はじめに

あなたは、八王子と聞いて「パッションフルーツ」を思いつくだろうか？ 実は、東京都で生産される果物の第3位はパッションフルーツであり、八王子市でも生産されている。

しかし残念ながら、そもそもパッションフルーツの認知度はまだ低い。私たちは、SNSを通じて大学生約100人にアンケートを取ったところ、「パッションフルーツを食べたことがありますか」という質問では、「はい」と答えた人は25%、「いいえ」と答えた人は75%となった。

パッションフルーツは見た目がややグロテスクだが、その香りはサマーフルーツの中でもとくに良く、また爽やかな酸味が特徴の美味しいフルーツである。市場が拡大する可能性を秘めており、新たな八王子の特産品になりうると考えられる。そこで私たちは、八王子産のパッションフルーツを

もっと多くの人に知ってもらい、「太陽の街・八王子」としてのブランドを確立するための方策を考え、提案したいと考えている。

図1・図2 マスコットキャラクター「ふるーみん」とパッションフルーツの写真



<http://www.ja802passion.com/profile1.html>

<https://faavo.jp/tokyo-hachioji/project/1879>

2. 現状—JA八王子パッションフルーツ生産組合の活動

八王子市でパッションフルーツを名産品にするべく、JA 八王子パッションフルーツ生産組合は様々な活動を行なってきた。直接、話を伺ったところ、八王子市は気候に恵まれたこともあり、パッションフルーツの栽培が可能であるが、平成 22 年の段階で生産者はわずか 3 軒の農家しかなく、生産もまだ試験的なレベルであった。その後、千葉県の試験場で栽培のポイントを学ぶなどの努力を重ねた結果、平成 24 年になると、加工品用としての供給が始まった。現在は、道の駅「八王子滝山」などでの販売を行っているが、流通量は限られており、また認知度も低いままとなっている。

写真 1 インタビューの様子①



写真 2 インタビューの様子②



3. 提案

私たちは、とくに若い世代に対してパッションフルーツをアピールするために、次の 3 つの提案を考えた。

(1) 学生天国での試食会

八王子の地域合同学園祭である学生天国は、八王子学生委員会が主催する八王子市の大学生たちによる合同学園祭である。

私たち木暮ゼミでは、毎年、選挙啓発の一環として模擬投票ブースの運営を行ってきた。その実績を踏まえ、来年から JA 八王子とも協力し、パッションフルーツを広めるための試食会を行いたいと考えている。

(2) 学食での試食

現在、杏林大学総合政策学部は八王子市ではなく、三鷹市の井の頭キャンパスにあるが、保健学部や外国語学部の存在から、多くの女子学生が通っている。そこで、学食で試食会を行うことで、若い女性たちにパッションフルーツの魅力を伝えることができるを考えている。

(3) 学園祭での模擬店

井の頭キャンパスで開催される学園祭は、毎年 1 万人を超える来場者数となっており、学生だけではなく、地域の子育て世代も含めた幅広い世代が訪れるイベントとなっている。そこで、学園祭において模擬店を出店し、パッションフルーツの美味しさと魅力を伝えていきたい。

私たちは、まずパッションフルーツを広めるためにも、手にとって実際に食べて感じてもらうことが重要だと考えている。